

知ろう！心のバリアフリー

1. いろいろな人がいることを知る

～ 世の中に同じ人はいない。みんなそれぞれなやみや困っていることがある ～

人はだれもが違っている

社会(世の中)に、あなたと同じ人は一人もいません。みんなそれぞれ特性があります。



<話す内容>

- ・「見た目で分かりやすい特性」から学ぶ。

- ・お年寄り、小さい子どもを連れている人、お腹に赤ちゃんがいる人、右利きの人、左利きの人、身体に障がいのある人、ケガをしている人、外国人など。

- ・外国人は、見た目だけでなく文化や宗教の違いがあることも触れ、次ページの「目で見て分かりづらい特性」につなげる。

《児童にやってもらいたいこと》

- ・スライド例以外に、どのような特性を持った人がいるか、児童に考えてもらう。

【ポイント】

- ・学校やまち中に様々な特性を持った人がいることを伝え、児童と関係ない世界の話ではなく、自分ごととして捉えてもらう。

見た目では分かりにくい特性

社会(世の中)に、あなたと同じ人は一人もいません。みんなそれぞれ特性があります。



自分にも当てはまる
特性はあるかな？
自分にはない特性は
どれだろう？



<話す内容>

- ・特性には「見た目では分かりにくい特性」もある。

・おなかが痛くなりやすい、ペースメーカーを付けている、色の見え方がちがう、緊張しやすい、過度に心配してしまう、大きな音が苦手、忘れ物が多い、など。

《児童にやってもらいたいこと》

・スライド例以外に、どのような特性を持った人がいるか、児童に考えてもらう。（味覚障がい、睡眠障がい、更年期障害など）

【ポイント】

- ・内部障がい、精神障がい、発達障がいについて伝える。

困っていることは一人一人ちがう

特性は一人一人ちがうので、困っていることも一人一人ちがいます。

①～③の人たちは、どのような特性を持っていて、何に困っているのでしょうか？

①

ここにある、このころ。

やさしさの巡る街、茅ヶ崎



茅ヶ崎市バリアフリー推進協議会
イラスト：Lisette Drawing

②

ここにある、このころ。

やさしさの巡る街、茅ヶ崎



茅ヶ崎市バリアフリー推進協議会
イラスト：Lisette Drawing

③

ここにある、このころ。

やさしさの巡る街、茅ヶ崎



茅ヶ崎市バリアフリー推進協議会
イラスト：Lisette Drawing

<話す内容>

- ・特性が人によって違うということは、困っていることも一人一人違う。

《児童にやってもらいたいこと》

- ・①～③は、どのような特性を持っている人が、どのようなことに困っているのか、考えてもらう。

【ポイント】

- ・ヘルプマークについても触れる。

2. 「バリア」を知る

～ 特性があるから困りごとがあるのではない。「バリア」があるから困りごとがある ～

なぜ困りごとが起きるのか（１）

困りごとが起きてしまうのは、

$$\text{人の特性} \times \text{社会(世の中)} = \text{困りごと}$$

<話す内容>

- ・「一人一人が持つ特性」と「社会（世の中）」が相互作用して「困りごと」になる。

※次のスライドで具体的に説明するため、このスライドでは、抽象的な説明となっている。

なぜ困りごとが起きるのか（２）

人の特性 × 社会(世の中) = 困りごと

車いすを使っている × かいだんしかない = いどうできない

色のちがいが
分かりにくい × 黒板に
白い文字と黄色い文字が
書かれている = 大事なところが
分からない

せいしんしょうがい × こわいと思いこむ = さけられてしまう

<話す内容>

（例１）

車いすを使っている人がいて、階段しかない場合、「階段しかないから、移動できない」という困りごとが生まれる。車いすを使っているだけでは何も困らない。

（例２）

色の違いが分かりにくい人がいて、黒板に白いチョークで文字を書いているところに、重要なことを黄色いチョークで文字を書いた場合、「白と黄色の区別がつかず、何が重要なのか分からない」という困りごとが生まれる。

（例３）

「精神障がいがある人は何をするか分からないから怖い」などと周りの人が一方的に思い込んだ場合に、避けられてしまうという困りごとが生まれる。精神障がい困りごとの原因ではなく、周囲の人の誤った思い込みが困りごとの原因になる。

「バリア」は社会（世の中）にある

人の特性	×	社会(世の中)	=	困りごと
車いすを使っている	×	かいだんしかない	=	いどうできない
色のちがいが 分かりにくい	×	黒板に 白い文字と黄色い文字が 書かれている	=	大事なところが 分からない
せいしんしょうがい	×	こわいと思いこむ	=	さけられてしまう

「バリア」 特性のある人にとって、かべになったりじゃまになったりするものごと

<話す内容>

- ・ 困りごとの原因は、人の特性ではなく、社会（世の中）にある。
 - ・ 「バリア」とは、特性のある人にとって、壁になったり邪魔になったりするものごとを言う。
 - ・ さまざまなバリアがあることについて、例を交えつつ説明する。
- ①物理的なバリア→目に見える物によって生じるバリアのこと。（例）車いす使用者にとっての段差
 - ②制度的なバリア→決まりごとによって生じるバリアのこと。（例）かつて女性には選挙権がなかった
 - ③情報面のバリア→情報の伝え方が限られているため生じるバリアのこと。（例）視覚障がい者にとっての文字案内がない乗り物
 - ④意識上のバリア→一方的な思い込みや無関心などによって生じるバリアのこと。（例）男性は泣いてはいけない

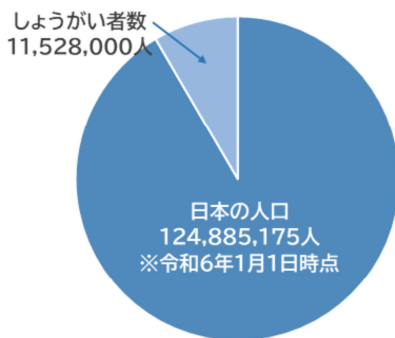
《児童にやってもらいたいこと》

- ・ 他にどのようなバリアがあるか、児童に考えてもらう。
- （例）
- ①物理的：手すりがない、
 - ②制度的：就職で男女差をつける、食べられない物があっても食事を残してはいけない
 - ③情報面：音が鳴らない信号、日本語しかないメニューや説明書
 - ④意識上：障がい者はかわいそうと決めつける、視覚障がい者用誘導ブロック上に物を置く

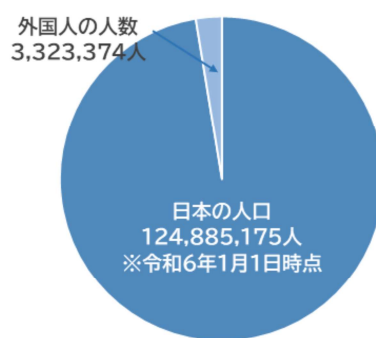
なぜ社会（世の中）にバリアがあるのか

社会(世の中)は多数の人たちが便利ならよい、という考えでつくられてきたからです。
つまり、多数ではない人にとっては、バリアがたくさんあります。

日本の人口としょうがい者数



日本の人口と外国人の人数



※令和6年版「障害者白書」(内閣府)より ※住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(総務省)

少ない人たちのことは考えなくて
もいいのかなあ？

日本人は、日本にいたら多いほう
だけど、世界の中では少ないほう
だね。



<話す内容>

・バリアがある一つの理由として、社会（世の中）が目立った特性のない「多数の人たち」が便利になるように作られてきたから、という考え方がある。

・だから、多数派に当てはまらない人（例として、障がい者や外国人）にはバリアが多い。

【ポイント】

・多数派の人たちだけが便利な社会（世の中）は、豊かな社会（世の中）ではないことを伝える。

3. 「心のバリアフリー」を知る

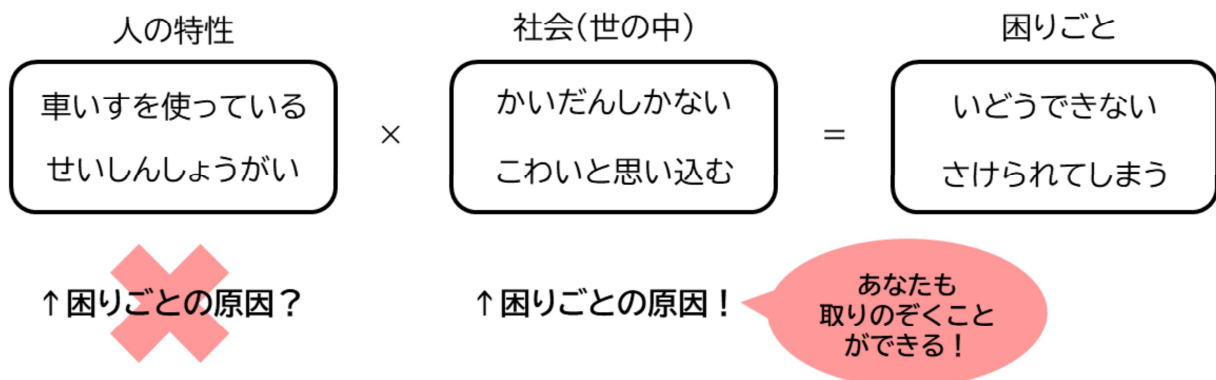
～ 分かり合おうとして、ささえ合う ～

「心のバリアフリー」のポイント（１）

「しょうがいの社会モデル」をりかいする

「しょうがいの社会モデル」とは・・・

「困りごと」の原因は、人ではなく社会（世の中）にあり、取りのぞくことができる！



<話す内容>

- ・心のバリアフリーを実現するためのポイントは3つあると説明した上で、1つ目である「障害の社会モデル」について説明する。
- ・困りごとの原因は、人の特性ではなく、社会（世の中）にある。
- ・人の特性を変えるのではなく、社会（世の中）を変えることで困りごとは無くすことができる。

【ポイント】

- ・児童自身が、社会（世の中）を変えることができることを伝える。

「心のバリアフリー」のポイント（２）

さべつをしない。ごうりの配りよをする。

さべつをしない

- ✓もうどう犬を店に入れない
- ✓女性だから社長にしない



ごうりの配りよをする

- ✓しんごうが変わったことを伝える
- ✓分かりやすい言葉でせつめいする

「さべつ」その人の特ちょうだけで、他の人とちがうあつかいをすること。
「ごうりの配りよ」自分がむりなくできる工夫やお手伝いをする事。

<話す内容>

- ・では、社会（世の中）を変えるために、児童は何をすればよいか。
- ・それは、「差別をしない」、「合理的配慮をする」こと。

《児童にやってもらいたいこと》

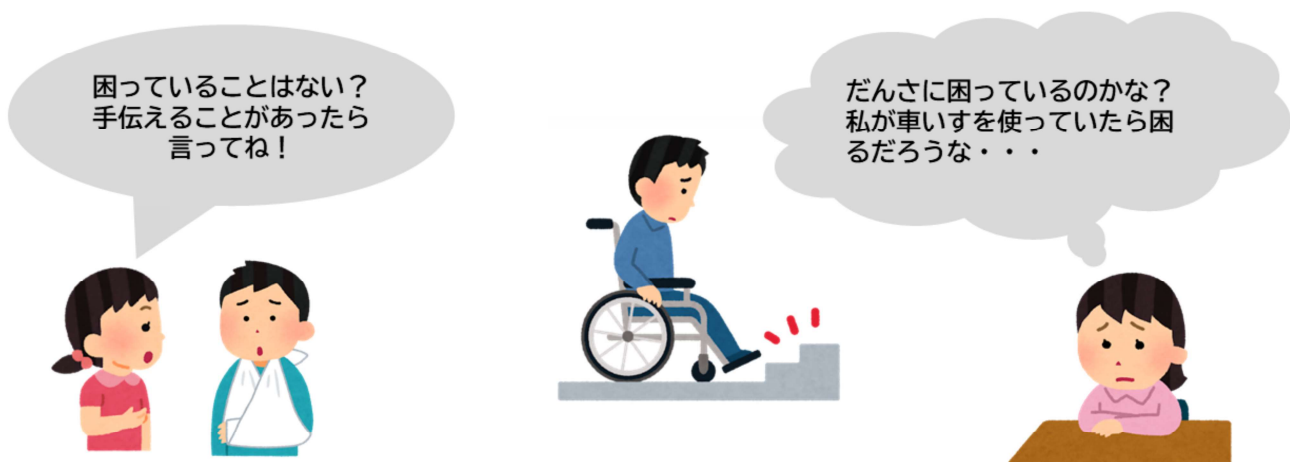
- ・スライドに例示したほかに、「差別」や「合理的配慮」にはどのようなものがあるか、児童に発言を促す

【ポイント】

自分ひとりで解決できない場合は、周りの人に助けをもらうことも、合理的配慮であることを伝える。

「心のバリアフリー」のポイント（3）

コミュニケーションをとる。困りごとをそうぞうし、共感する。



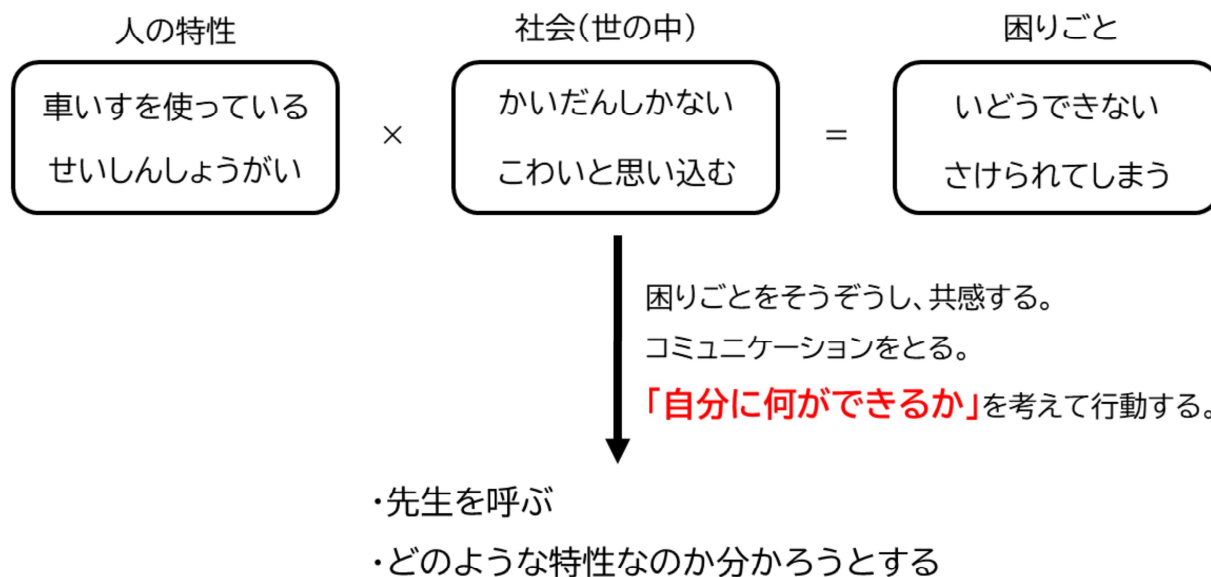
<話す内容>

- ・ポイントの3つ目は、「コミュニケーションをとる。困りごとを想像し、共感する」こと。
- ・特性は人によって違うし、困っていることも人によって違う。自分以外の人のことは知ろうとしなければ何も分からない。
- ・思い込みで行動せず、相手が希望することを聞くことが大切。
- ・コミュニケーションをとり、相手の立場に立って想像し、共感する人が増えることでみんなにとって優しい世の中・過ごしやすい世の中になる。

【ポイント】

「児童自身ができること」であることを伝える。

「心のバリアフリー」のポイント（３）（つづき）



<話す内容>

- ・人の特性ではなく、社会（世の中）を変えることで困りごとを無くすることができる。
- ・社会（世の中）を変えるために児童ができること、それは、コミュニケーションをとって「自分に何ができるか」を考え、行動すること。
- ・例えば、学校に階段しかなくて車いすに乗っている児童が困っていたら、先生を呼んで助けを求める
- ・精神障がいがある人を一方的に怖いと決めつけずに、どのような特性なのかを理解しようとする

【ポイント】

- ・「自分に何ができるか」を考え、行動することが大切であることを伝える。

「心のバリアフリー」とは

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、
そうごにりかいを深めようとコミュニケーションをとり、ささえ合うこと



社会(世の中)に、あなたと同じ人は一人もいない。

気持ちや考え方、身体は一人一人ちがう。

だから、おたがいに話し合って、分かり合おうとして、ささえ合うことが必要。

<話す内容>

・心のバリアフリーについて、定義を説明した後、平易な言い回しにした文章（赤字部分）をメインに説明する。

4. まとめ

今日のまとめ

- ✓ 気持ちや考え方、身体の特徴は一人一人ちがうから、困りごとも一人一人ちがう。
- ✓ 困りごとが起きる原因は、社会(世の中)にバリアがあるから。
- ✓ 社会(世の中)のバリアをなくすために、あなたにできることがある。
- ✓ おたがいに話し合って、分かり合おうとして、ささえ合うことが必要。

<話す内容>

授業のまとめを、スライドに沿って説明する。